

市民と市長の対話集会

「つながるまち、小郡」を語ろう！

平成 30 年 10 月 26 日（金）

午後 7 時～午後 8 時 30 分

小郡交流センター

○意見交換議事録

○災害時避難行動要支援者対策について

○健康づくりポイント制度の導入について

質問者 A： 対話集会が中止になった時に交流センターが避難所になったが、その時に小郡市からの情報の伝達が非常に遅く、16 時過ぎ頃、携帯に「避難所を開設する」という情報が入った。区長をしているので、自分ほかに伝達しなければならない立場。その辺の情報は早く回してほしい。避難所の開設は放送もされているが、全然聞こえない。せめて行政区のトップだけには、早めに連絡してほしいと思っている。

山下経営政策部長： 情報の伝達については、なるべく早くするには心がけているが、確かに今回「遅い」という指摘もあっている。情報伝達については、区長への直接の電話や、防災行政無線、エリアメール、県の防災メール「まもるくん」、ホームページ、Facebook で情報発信を行っている。伝達の関係で元市長から ASP サービスについて説明があったと思うが、これを導入すれば一斉に伝達ができるようになる。今までは一軒、一軒、電話で声掛けしていたものも、もう少し素早くできるようになる。また、防災無線の内容がわからない時に指定された番号に電話をかければ、防災無線の内容が聞くことができるシステムを今年度中に整理する予定でいる。早く、正確に伝わるように努めていくので、よろしくお願ひしたい。

質問者 A： 避難の情報伝達は、小郡市としてはどういう条件になった時に出しているのか？

山下経営政策部長： 台風の場合は暴風圏内に入る予測が出ている時に、避難所を開設するようにしている。台風の場合は 15 カ所の避難所を開設するが、最近は大きい台風が来ており、暴風ではなく強風圏でも自主避難所ということで、今回は 10 カ所で避難所を開設した。そういった気象条件で避難所を開設している。

質問者 A： 暴風圏内に入ってから「開設した」と言われても、すでに避難できる状況では

ないかもしれない。本来、暴風圏に入る段階でそういう情報を出してほしい。そうしなければ、とくに高齢者は避難所まで行けない。

山下経営政策部長： おっしゃる意味は十分理解できる。例えば夜中に最接近する予測の場合は、明るいうちに開設して避難ができるように意識している。今後はそういったことを考えながら、避難所開設を決めていきたい。

質問者 B： 高齢者は家を出たがらず、孤独になりがちだ。もっと外出の機会を作れるよう、地域バスや、あすてらすの「満天の湯」に、高齢者を優待できるようにしてほしい。75 歳以上が、市内には約 8,000 人いる。それから、先ほど情報伝達についてのお話もあったが、私も同意する。前もって天気予報、潮の満ち引き等によって風量がわかる。それから慌てて集まって対応するのではなく、危機対策できる人が 1 人いれば、上司と相談してすぐに情報伝達できるはず。自分は 83 歳になるが、私らの年齢は戦争で戦死した人が多い世代ですから、産めよ増やせの時代であった。補助もなく、育っている。自主努力ができるような景品とか、商品券とかではなく、自主努力ができる方向にもって行っていただきたい。

有馬市民福祉部長： ご意見ありがとうございます。まず健康ポイントについてだが、家から出られない孤独を抱えている方、ひきこもりの方、そういう方が弱っていくと将来介護を必要する人になりやすい。例えばこういう風にお集まりいただいた皆さん方と、顔を合わせてつながり交流してお話することは、医学の研究でも非常に大事であると論文でも発表されている。小郡でもそういう取組を今から推進していくことで、介護を必要する人を減らしたり、孤独死をなくしたいので、策としてやっていきたい。

コミュニティバスの使い勝手に関しては、まずコミュニティバスは市の運営でやっている。本数が増えれば外出する機会が増え、買い物に行くことも介護の予防にもいいといわれているので、そういうことを目指していきたいのだが、市の運営上、自己負担をいくらにするかという判断は難しい段階。現在利用者についての詳細な情報というのを集めて、今年中にアンケート調査を実施し、利用者数、年齢層を把握しながら、今後の利用料金の見直しや、乗り合いタクシーの導入を検討している。こういったご意見を参考にしながら、具体的な検討を進めていきたい。

あすてらすへのご意見は、本来「健康づくりポイント」の制度がなくても、外へ出てもらう機会を増やせることが一番の理想。何があったら「行ってみよう！」というきっかけづくりになる。そこも踏まえながら、例えばポイントが集まれば「満天の湯」の無料券をもらえるとか、そういうサービスなどを検討していきたい。

質問 C： 先ほど出た台風の 25 号の話だが、台風が接近した時に寺福童はとても被害があったと聞いている。台風が過ぎ去った後に木の枝がたくさん落ちていて、子どもたちも遊べない状況で大変だった。それをどういう風に対処されたのかわからないが、散乱した枝は勝手に拾っても良いのだろうか。

肥山都市建設部長： 台風後の公園や道路に散らばった樹木については、私たちも台風後にパトロールしながら道の脇にどけたり、片づけたりをしている。だが、直後に全域を回ることには正直難しい状態。できれば住民の方たちで、邪魔になるものをとりあえず避けて置いてもらうとか、集めてもらえると非常に助かる。そのあと直接市役所や、区長に申し出てもらえれば、市の方で片づけが入る。そういったちょっとした“できること”をやっただけだと非常にありがたい。ぜひともお願いしたい。

質問 C： でも、公園にある大きい木の伐採は、台風の前はもちろん、年に 1 度や 2 度、市の方で伐採していただきたい。常時見て、散乱する前に防止をお願いしたい。

肥山都市建設部長： 公園に生えている大きな木の伐採は、概ね 3 年に 1 回やっている。もちろん見た印象で、危ないと思うもの、目につく枝があれば、その都度伐採の対応をしているので、市役所か区長にご連絡をお願いしたい。

質問者 D： 今回の水害の時に、“対応が少し遅れた”とあるが、それは市の幹部が小郡にあまりいなかったという風に聞いている。要望だが、せめて副市長くらいは、小郡市内にずっといていただきたい。それから避難所へ行く際、お年寄りや誰が連れていくのかという問題がある。区長が全員を連れていくのか？ 昼間となれば、若い市民はだいたい仕事で不在の状態、国は 70 歳まで働き方改革をするという話題も出ており、今後ますます日中は地域にお年寄りしかいない状況になる。こういうところに、もっと気を使っていたきたい。それと、避難所とする交流センターまで行くのではなく、例えば病院、大きなビルとかマンションなどに緊急避難場所として提供できないか、市として声掛けをやってもらいたい。そうすれば、近くのお年寄りも行きやすくなると思う。今の状況では、「寺福童まで避難してください」とは簡単に言えない。

山下経営政策部長： 今言われたように、例えば病院といった施設に対しては福祉避難所として協定を結んでおり、市としてもそういった場所にご協力をお願いしたいと考えている。それから対応が悪かったという件は、確かに水害の翌日に私どもの配備態勢を縮小し、被災された現場の方に行けていない状況があった。市長からもあったように、今後は被災状況を素早く把握するために現場に赴き、状況を把握し、いろんなご意見をお聞きしながら対応を進めていきたいと思っている。

質問者 E： 健康のポイント制度は、ひとつの出口のやり方だと思うが、例えば生涯センターやコミュニティセンターでいろんな講座があり、全体運動、脳のトレーニング、障がい者向けに上半身だけでも運動できるようなものとか、いろんなことが行われている。いろんな弱者の方たちも元気でいられるような、入口となる場の整理をしておかないといけないと思う。そういう取組を市にしてもらい、行政区でセレクトできるようになればいい

い。今あるものを出口として得点にしていくことは結構だが、それよりも今ある宝をどういう風に整理して、各区の中で「市のこの講座をやれば、こういう方が来てくれるかなあ」と選べるように、ぜひ早めに作っていただきたい。

有馬市民福祉部長： ご意見ご要望ありがとうございます。今から仕組みを構築していこうと思っている。市で考えていることに、スポーツ大会やボランティアのイベント、またゴミ出し等の生活支援のサポートとか、「これもポイントにしたらいいいのではないか」という案がいっぱいある。先ほどご提案いただいた講座の関係も十分踏まえた上で、より良い制度構築に向けて、検討していきたいと思っている。

質問者 F： コミュニティバスの乗客数が少ないという原因は、3時間に1本という運行状態に問題があるのではないかと。現状の運行では、利用しづらい。とくに寺福童は高齢者が多く、免許証を返納しろと言われ、返納したら車に乗れないから買い物に行けない。寺福童はスーパーもないので、市のバスを使わざる終えないのだが、それが3、4時間に1本だととてもじゃないが使えない。せめて1時間に1本にしてもらいたい。そうすればもっと利用客が増えると思う。現在の状態では、ただ空気を運んでいるようなもの。鳥栖の「フレスポ鳥栖」に行った際に、西鉄の10掛けほどのバスが常時停まっているのを見る。高齢者が買い物袋をぶら下げて乗っているが、規模も広く回っていて、料金は200円。そういう制度を取られたら良いと思う。

肥山都市建設部長： ご意見ありがとうございます。言われた通り、小郡市は市内を4台回っている。7コースあるため、どうしても3時間に1本、1日2回程度になっているのが現状。今このコミュニティバスを今後どんなふうにしたらいいいか、実際の利用状況調査を今年度するようにしている。とりあえず今年度は、今あるバスで少しコースを変えてるなどの改定をしようとしている。ただし、コミュニティバスだけで市内いろんなところを回るのは難しいため、平行しながらコミュニティバスにタクシーを組み合わせるとか、自治会バス、それからスイミングスクール、病院のバスも走っているの、そういうバスも一緒に利用できないか、そういうところも併せて、公共交通の全体的な見直しを行うようにしている。

例えばタクシーだと、免許証を返納した証明書を見せれば1割安くなり、市の方でも免許証を返納していただければ1回だけ1万円のタクシーカードを配っている。いろんなサービスを組み合わせながら、改定を行っていききたいと思っている。来年度はタクシー会社、病院、スイミングスクールなどと協議を行い、32年度からは新しい体系をスタートできる方向で進めているので、ご理解のほどお願いしたい。

質問者 G： 小郡市の行政区は自主防災組織を持っている。これは小郡の宝だと思っている。7月6日の大雨の対応については、自主防災組織の方から、どういった動きができるか市が働きかけをやっていいのではないかと。我々は今まで4、5回ほど避難訓

練を取り組んでいたが、大雨の場合は予測がつく。だから雨が降る前に避難するという想定で訓練をやっていた。今回の場合は、7月6日の15:40頃に一斉メールで避難勧告が出たが、避難準備情報が出ないまま勧告になり、そして4、50分後になって指示が出た。私も初めて指示を聞いたが、勧告から指示の間に大雨が降り、公民館の前は、すでにくるぶしまでに水位が上がっていたので、とても逃げられるような状態ではなかった。先ほど、「近所のアパートやマンション、病院を避難所にしたらどうか」という話があったが、ぜひともそれをやってほしいと思う。

もう1点は、自主防災組織に対する働きかけを、ぜひとも市で指導してもらい、全行政区が避難訓練等をできるような環境作りも大事であると考えている。

山下経営政策部長： ご意見ありがとうございます。今回の大雨で課題として上がってきたことに、避難準備・高齢者等避難開始情報が出せなかったことが問題になっている。これが河川の頭の水位を見て、情報や勧告、指示を出しているわけだが、今回その水位の上がり方が非常に早く、出すべき「避難準備・高齢者等避難開始情報」を出す時間がなかなか取れないまま、いきなり避難勧告というかたちになった。今言われた通り、自主防災組織については全区で立ち上げてもらっているが、そういった活動については、これから市としても財政面の支援、また人の支援ということで、これまで通り防災リーダーの講習会などもやっていきたい。そういったところで自主防災組織が、市内全域で充実していくように、協力をしていきたいと思っている。

・幼稚園施設のアンケートの結果について

質問者 H： 勉強不足でよく理解できない部分もあるのだが、これは県や国の施策を市でやるということか？市だけのことではないのか？市でやるとなれば、どれくらい予算を考えているのか？そこに市の税金が入るのか、入らないのかを知りたい。

児玉子ども・健康部長： 無償化というのは、労働力の確保という目的で、できる限り働いてもらおうという観点で、働きやすい環境作りという案の一つである。国の資産、1兆7000億円という数字が出ており、これは今度の10%消費税の財源を一部使うというのが政府の方針。この分は、保育料などの減免に充てられるため、直接どういう形で実行されるのかはわからない状況で、保育料として市の方に入ってくるのかはまだ議論されていない。ただ、1兆7000億円ぐらいの財源規模で想定した事業になっている。

質問者 H： 結局、市の負担はないという理解で良いのか？

児玉子ども・健康部長： 実際には具体的な事業説明があっていないので、1兆7000億円がどの程度の規模になるのかも、私どもはわからない状況である。幼稚園の授業料と保育

料が入るので、それがどの程度、市や県に負担させるのかはわかっていない。ただ、消費税の見込み分を見るところ、国が全部負担するのではないかという予想はしている。

質問者 H： そのようにぜひお願いしたい。

子ども・健康部長： 私どももそう願っている。

事前質問 A： 病院、公共施設などの多くが土足で利用できるが、交流センターは土足に対応していない。ほかの人が使ったスリッパは不衛生であり、スリッパが脱げた時には危ない。ぜひ土足対応にしてほしい。

有馬市民福祉部長： 実際に、土足のまま入れる公共施設は増えている。とくに校区公民館は、もともと老人福祉センターという施設だったこともあり、以前の感覚からすると土足禁止というのが主流だった。でも最近は、ご意見にもあったように転倒防止や、ひざが悪い方の脱ぎ履きが大変であるとか、いろいろな不便な面が出てきている。今はコミュニティセンターの施設を新築する時、改修工事をする際に、今は土足対応に変えていこうという方針でやっている。生涯学習センターでも、土足のご要望は大変多くいただいていた。計画的に施設を修繕改修していこうと、個別施設計画というものを作っている。この場でははっきり何年後かとは申し上げられないが、数年後にはそういう改修を計画しているので、もうしばらくご辛抱をお願いしたい。